

## 2023年1月の金融経済概況のポイント

### ■景気の基調判断

- 今月の基調判断は、「緩やかに持ち直している」と、前回と同様の判断です。7か月連続の判断据え置きとしました。
- 需要項目ごとの判断は、個人消費について「持ち直している」、観光についても「緩やかに持ち直している」と上方修正しました。ただ、いずれも修正は小幅であり、現段階では基調判断を変更するほどではないと考えています。その他の項目には、変更はありません。

### ■個人消費の動向

- 大型店売上高は、12月、前年を上回りました。衣料品は、外出や旅行需要の回復を受け、引き続き、持ち直しの動きがみられました。食料品は、値上げに伴う客単価の上昇やクリスマス・年末の「ハレの日」関連商材の好調から、売上が増加しました。大規模店舗では、遠方客を含め、客足の回復が続き、売上が増加しました。一方、家電販売は、需要一巡からテレビ、白物家電を中心に全体的に販売が減少しており、弱めの動きとなっています。
- 新車登録台数は、12月、軽自動車が前年を上回ったものの、除く軽が前年を下回ったことから、合計では前年を幾分下回りました。合計は、4か月振りの前年比マイナスです。メーカーからの完成車供給は、引き続き、低めの水準となっています。一方、販売地合いは、堅調です。自動車ディーラーでは、新型車投入の効果もあって相応に受注を獲得できています。車の供給が低水準となっている中、受注残は高水準で推移しています。

### ■観光の動向

- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、12月、紋別は前年を下回ったものの、それ以外の3空港で前年を上回ったことから、全体でも前年を上回りました。12月まで15か月連続の前年比プラスです。引き続き、コロナ前の2019年水準を下回っていますが、旅客数は回復傾向にあります。この間、旭川空港の国際線の就航便数は、12月、定期便、国際チャーター便ともにゼロとなり、これで34か月連続でゼロとなりました。
- ホテル・旅館宿泊客数は、12月、前年を上回りました。地域差がみられているほか、全体でも引き続き、コロナ前の2019年を下回っていますが、旅行需要が回復する中、「全国旅行支援」による押し上げ効果もあって、緩やかに持ち直しています。旭川市内のホテル客室稼働率も、12月、前年を上回りました。こちらもコロナ前の2019年の水準を下回っていますが、緩やかに持ち直しています。
- 各地観光施設の入込みは、12月は、ウトロ温泉、利尻・礼文フェリーが前年を下回った一方、旭山動物園が前年を大きく上回り、層雲峡、博物館網走監獄も前年を上回ったことから、合計でも前年を上回りました。引き続き、コロナ前の2019年の水準を下回っていますが、観光需要の回復を受けて緩やかに持ち直しています。

## ■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局における公共工事請負金額は、12月、宗谷が前年を上回ったものの、上川、オホーツクが前年を下回ったことから、全体でも前年を下回りました。2022年4月以降の累計では、宗谷が前年を下回ったものの、上川、オホーツクが前年を上回ったことから、全体でも前年を幾分上回っています。

## ■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、11月、持家が前年を幾分上回ったものの、分譲が前年を大きく下回り、貸家も前年を幾分下回ったことから、全体でも前年を下回りました。月によって振れはありますが、基調としては、持家、貸家が減少している一方、分譲は横這い圏内の動きとなっています。

## ■雇用

- 雇用状況は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに改善しています。有効求人倍率は、11月、旭川、稚内、北見、網走の全てで前年を上回りました。旭川、稚内、北見、網走の全てで1倍を上回り、全体でも1倍超えとなりました。1倍超えは19か月連続です。新規求人数は、11月、稚内が前年を下回り、網走が前年並みとなったものの、旭川、北見が前年を上回ったことから、4つの職業安定所の合計でも前年を上回りました。コロナ前の2019年を上回っており、労働需給は、緩やかに改善しています。

## ■今後のポイント

- 当面は、値上げが続くもとでも客単価の上昇がみられるなど、消費が堅調となっているほか、観光についても、引き続き、全国旅行支援などの需要喚起策による押し上げやインバウンド需要の回復が期待できることから、全体として緩やかに持ち直していくとみられます。ただし、物価上昇が続く中で、消費者の節約志向が強まる可能性や、感染拡大が消費にマイナスの影響を及ぼすリスクなど、引き続き、不確実性が高い点には留意が必要です。今後、道北地域の経済をみていく上でのポイントとしては、①感染抑制と経済活動の両立が進むもとでの観光、消費の動向、②物価上昇の継続が消費や企業収益・設備投資に与える影響、について注意を払いたいと思います。

以上